

令和3年度香美市子ども読書活動推進委員会 議事概要

当会は令和4年1月20日に開催予定をしていたが、高知県内の新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し中止となった。

よって、下記のとおり各委員から活動報告を集計した。

【回答者】

町田由岐子（委員長）、島村万紀（副委員長）、竹村淳子、宮原理香、中島敦子、小松由香、小松智恵、中村恵子

【未回答者】

松折果恵（事情により未回答）

（1）第三次香美市子ども読書活動推進計画の進捗について

◆家庭・地域における取り組み・現状と課題

・コロナ禍の下、私達の活動の場である保・幼・学校・デイサービス・ブックスタート等が、昨年秋の一時期を除いてほぼ読み聞かせ・おはなし会を中止し、外に向けての活動はなかった。

・2ヵ月に1度の定例勉強会は継続中である。

・図書館にて「冬のおはなし会」を開催するも、参加者がなかった。（PR不足か）

・学校での読み聞かせの実施

山田小学校（10月末～12月）、香長小学校（5月、10月、12月）、鏡野中学校（11月、12月）

・図書館でのおはなし会の実施

夏休みに2回計画したが、コロナの影響で開催は1回のみ。

冬休みに1回開催したが、残念ながら子どもの参加はなかった。

・新型コロナにより、小中学校での読み聞かせの機会が減った。

・1年ぶりに図書館でのおはなし会があり、普段会わない子ども達にも読み聞かせをすることができ、うれしかった。

◆幼稚園・保育園・学校における取り組み・現状と課題

【保育園】

- ・各部屋で担任が絵本の読み聞かせをし、子どもたちが好きな絵本から題材を選び劇遊びしたり、運動会の競技のテーマとしたりしている。(1日に1~2回クラス全員を対象に実施)
- ・クラスには子どもたちが自由に本を見られるように本棚を設置し、季節に合わせ絵本の入替を行っている。
- ・家庭への貸出は行っていない。

【幼稚園】

- ・教員やボランティアによる積極的な読みがたりを通して、絵本の楽しさに触れる機会をつくる。
- ・週1回、家庭への絵本の貸出を通して、親子で絵本に触れ合う機会をつくる。
- ・移動図書館を利用し、園にはない多様な本に触れ合える。
- ・本の傷みが早いため、絵本を購入する予算が必要。
- ・子どもたちへの読みがたりがなぜ必要なのか、保護者に理解してもらえるように積極的に伝えていく。
- ・教師の資質向上(選書・読みがたりなど)

【学校】

1 読書習慣の形成

①全校一斉読書

- ・8:15~8:25 火・水・木・金(水曜日は、読み聞かせ)

子どもたちにとって朝読書は習慣化し、本を手に取り静かに読書する姿が見られるが、ジャンルが偏ってしまう子もいるので、おすすめの本を紹介したり、本のテーマを決めたりもしている。

- ・1年生の4月は一人読書が難しいため、6年生が替わり合って読み聞かせを行っている。

③親子読書の充実

・本校では、1・2年生が親子読書に取り組んでいる。家庭によって取り組み方の温度差が大きい。読書後の子どもや保護者の感想、また人気の本を紹介するなど何らかの手立てが必要。保護者があまり本に親しんでなく読書を好まない場合も増えてきている。親子ともに本とどのように出会うか、乳幼児期からの取組の大切さを感じる。

④各学年の推薦図書の共通理解

・推薦図書の全冊読破を目指し、全校で取り組んでいるが、毎年、なかなか読み進まず、3学期の追い込みが大変な現状が続いている。改善を目指し、推薦図書の内容が子どもたちに合っているか見直すことになった。教員が読ませたい本にばかり偏らないように、子どもたちの興味ある本も増やし、意欲的に読書に取り組めるようにする。

2 読書センター及び学習・情報センターとしての機能の充実 6 図書館との連携

②教科関連等の図書資料の充実

6-①授業における図書館の活用（教科等活用計画を作成し、それに基づく連携）

6-②市立図書館の資料の活用

・各教科計画的に図書を利用することを目指している。前もって必要な本を図書支援員に伝えることで、支援員が市立図書館にも問い合わせしてくれ、授業における効果的な図書利用につなげることができ助かっている。

・市立図書館の多様な図書の充実は、各学校にとって大きな力だと思う。

（ただ、手軽にすぐ調べられるパソコンの利用が多くなっている。ピンポイントで素早く知ることも必要だが、広く俯瞰して見る中で、新たな発見や気づきがあること、本を開くことで世界が広がることを体感する機会を多く持つことが必要と感じる。パソコンも図書もそれぞれの良さを理解し、活用できることを目指したい。それは、大人も同じだと思う。）

③本の除籍、計画的な入替え

・子どもたちがわくわくしながら本を手にとってもらいたいと、古い本の除籍も心掛けてはいるが、2校掛け持ちの支援員だけではなかなか進まないのが現状である。計画的な入替えには、年数とか何か目安になるものはあるのでしょうか？

3 児童・生徒の自主的な活動

①図書の紹介や読書量の報告

・図書委員が中心となって新刊書や推薦図書などを集会で紹介したり、ポスターを描いたりしている。

②読書活動の体験

・毎年、保育園に行つて読み聞かせをしたり、就学時健診や1日入学のときに読み聞かせを行ったりしているが、今年はコロナで全てが中止となってしまった。

⑤図書委員会活動の活性化

- ・子どもたちが主体的に取り組むことを重視している。今年は、子どもたちが考えた「としょかんクイズ」を実施した。クイズに答えようと「ヒントの箱」の本や上級生たちに聞きながら、いつもは開いたことのない本を開いて答えを見つけて大喜びする姿が多く見られた。
- ・これまでには、「しおりコンテスト」や「ポップコンテスト」なども行ってきた。上位入賞者だけでなく、みんなの作品を掲示することでたくさんの児童が図書室に来る姿が見られた。

7 読書ボランティア団体との連携

○読み聞かせの継続と充実

- ・いつものように読み書かせ年間計画を作成し取り組んだが、コロナにより中止する期間が多くあり、例年の半分ぐらしか実施できなかった。
- ・片地校区の方や、山田おはなしの会の皆さんも読み書かせボランティアとして参加してくださっていて、本当に助かっている。
- ・今年度は、卒業生の保護者が継続して読み聞かせをしてくれることになり喜んでいましたが、回数が減ってしまい残念だった。

○読書ボランティアとの連携

- ・本校では、香美市立図書館から2ヵ月に1度本を借り、保護者に開放した図書館「あったか図書館」を昨年度の秋に開館している。その本の借り換えに読書ボランティアとして参加してくれる人ができ、読み聞かせだけではなく、新たな読書ボランティアができ嬉しく思う。
- ・この3月18日には、ずっと願っていた地域に開かれた図書館を目指し、午後2時から4時までの2時間「あったか図書館」を地域の方に開放することになった。次年度からは月2回の開放を予定している。この間、2名の方に図書館にいてもらうことにしている。新たに「あったか図書館」ボランティアを募集中である。(本校赴任以来の願いであった地域開放図書館がいよいよスタートできる。コロナで途絶え無理かとあきらめかけていたが、地域の方に感謝！)

- ・今年度はコロナ禍ということもあり取り組みはほぼ出来ていない。
- ・学校の判断により出来ることのみ行った。

◆図書館における取り組み・現状と課題

・図書館資料の整備・充実について

子ども(0~18歳)への年度別貸出冊数の推移は下表のとおり。貸出冊数が令和2年度と

平成 31 年度を比べて▲2,296 冊となった原因としては、新型コロナウイルス感染拡大による図書館の閉館期間（令和 2 年 4 月 11 日から令和 2 年 5 月 11 日まで）があった事と、利用者の利用自粛によるものと思われる。

平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度（令和 4 年 1 月 7 日時点）
25,259 冊	22,963 冊	17,126 冊

・「子ども司書」養成講座の実施について

「子ども司書」養成講座は 1 年ぶりに実施し、山田小学校での基礎講座をはじめ、図書館及び学校での実技・実地研修、オーテピア高知図書館にて野市図書館との合同で専門研修を行い、今年度は 14 名の「子ども司書」を認定した。

来年度は新図書館移転準備のため実施しないが、「子ども司書」と連携して行う事業を計画している。

・主催事業（イベントの開催）について

6 月に物部分館主催の「キラキラ夏休みおはなし会」、11 月に香北分館移転オープニングイベント、愛あいふれあい祭り参加、12 月に香北分館主催の「お正月リースづくり」を実施した。香北分館オープニングイベントでは、香北中学校吹奏楽部による演奏を始め、おはなし会・手ぶくろ人形づくり・香美市初開催となる高知みらい科学館モバイルミュージアム・リユース本の配布会を行い、当日は多くの方が来館した。

・学校との連携について

学習としての図書館見学や、図書支援員と連携し教科関連図書の貸出を継続して行っている。令和 3 年度から図書支援員のコーディネーター的役割を図書館が担い、今年度は学校やオーテピア高知図書館にて研修会を 5 回開催した。来年度も引き続き連携を行う。

・ブックスタートについて

感染対策のため職員 1 名が健診会場での配布を行っているが、極力接触を避けなければならないことから読み聞かせ等はできず、最低限の案内のみとなっている。今後の読み聞かせボランティアの参加については、感染状況に応じて判断する。健診対象者への本の配布率は、令和 4 年 2 月 1 日現在 95.8%である。

また、今年度からは専用のバッグも配布している。館内にはブックスタート図書コーナーを設置し、NPO ブックスタートの推薦図書を揃え、貸出も行っている。

・高知工科大学との連携

今年度も新たに長期貸出図書の提供を受け、要望のあった幼稚園・保育園にアウトリーチサービスとして巡回図書を行う予定である。前回貸出を行ったあけぼの保育園では好評で、通常のアウトリーチサービスとして約 150 冊を 2 ヶ月ごとに入替を行い利用している。工科大との連携分については、冊数は約 70 冊、貸出期間は 2 ヶ月、通常の使用の下で生じた本の汚れや破損による弁償等はないため、ぜひお気軽にご利用ください。

◆コロナ禍における取り組み

【家庭・地域】

- ・活動前の体温測定やマスク、フェイスガードを着用した。
- ・読み聞かせではマスク着用となった。
- ・マスクをして読み聞かせしているが、声が届かない、表情が分かりにくいなど難しさを感じている。

【保育園】

- ・これまで通り絵本は自由に見られるようにしている。
- ・子どもたちは好きな時間に絵本を見たり、保育士が自由遊びの時間に読み聞かせをしている。

【幼稚園】

- ・子どもの座席の間隔を空ける。
- ・手指の消毒や机などの消毒
- ・室内でのマスク着用

【学校】

- ・人との関わりを避けるため、全てにおいて活動が制限された。校内での読書活動も他学年との読み聞かせは中止した。
- ・図書室の床には足形を距離をとって貼り、借り換え時には足形の上に並ぶようにし、密にならないようにした。また、時間を決めて学年ごとに図書の借り換えを行ったりして密を避けた。
- ・ボランティアによる読み聞かせも、いつもより子どもたちと距離をとって行った。例年行っているボランティアによる「七夕読み聞かせ」「ハロウィン読み聞かせ」も中止した。

- ・読み聞かせ等も全く出来ない状況だった。

【図書館】

図書館では飛沫対策としてカウンター及び閲覧室テーブルにシールドの設置、座席の間隔を確保、出入口に検温器・手指消毒液の設置、手が触れる箇所の消毒作業等を行い、利用者に安心してご利用いただけるよう取り組んでいる。

設備としては、国の交付金を活用し自動貸出機を11月に導入した。利用者がセルフで貸出ができるため、ぜひご利用ください。

(2) 令和4年度の活動について

【家庭・地域】

- ・新図書館オープンに向けて定期的な「おはなし会」等のイベントを企画中。
- ・ブックスタート配布用冊子を作ることは良いことだと思う。以前作ったものはあまり活用されなかったため、いろいろな世代が手に取りやすいものにしてほしい。

【保育園】

- ・コロナが落ち着いていれば、読み聞かせなどに取り組んでいきたいが、現在計画は立てていない。

【幼稚園】

- ・令和3年度の反省を振り返り、4年度に活用する。

【学校】

- ・新図書館開館に向け、様々なツールを活用して情報を伝えたい。
- ・SNS活用の知識に疎いのでよくわからないが、若い方は、紙媒体よりもネット関係の方が目にしてくれる機会が多い。
(学校でもヒシヒシと感じている。便りもネットにしてほしいとの声もあった。)
- ・新図書館開館は、本になじみの薄い保護者の方々にも本に親しんでもらえる絶好のチャンスだと捉えたい。
- ・今年度コロナによってできなかったことも、何らかの防止策を取りながらできるだけ実施の方向で取り組んでいきたい。

- ・担当も決まっておらず、取り組みや方向性は未定。
- ・コロナ禍以前のようなことができればとは思っている。

【図書館】

令和4年11月開館予定の新図書館について、令和4年9月1日から休館しオープンに向けて移転作業を行う。

来年度の取り組みとしては、新たに子ども向けの選書を載せた冊子の作成を行う。高知県が発行している「絵本おはなし宝箱」を参考に、過去の「子ども司書」認定者や読み聞かせボランティアの方々と連携して作成に取り組む予定である。当該冊子は、ブックスタートで配布する。

また、新図書館の書架に「子ども司書」選書コーナーを設ける。事前におすすめ本のアンケートを集計し、直接来館できる方とはPOP作成や選書会を予定している。

(3) 子ども読書活動推進のために図書館をどう活用できるか

【家庭・地域】

- ・おはなし会の開催（年齢別・季節別）
- ・読み聞かせボランティアのための研修
- ・新しく読み聞かせを始めようと思っている方のために年に1回程度、講座開催をすると良いと思う。
- ・読み聞かせ講座の開催（定番の講座ではなく、気軽に参加しやすい会が良い）
- ・読み聞かせコーナーの設置（香北・物部分館を含む）

【保育園】

- ・大型絵本や保育園にない絵本を借り、読み聞かせをしていく。

【幼稚園】

- ・園外保育などに利用し、子ども達が読書（本）に親しめる環境をつくる。
- ・パネルシアター、エプロンシアター、大型絵本などの貸出をお願いしたい。
- ・子ども達が調べたい時にすぐ図書館を利用できるようにしたい。

【学校】

- ・各学年、授業における図書館活用の計画を早期に立て、支援員と連携しながら市立図書館を活用し、子どもたちに豊かな図書との関わりの中で学ぶ環境を整える。
- ・そのためにも、今まで活用した本のリストを作成したい。（教員は多忙なため、授業間近になって要望が出たり、使用を諦めてしまったりすることが見られる。）

- ・ 1 学年、1 単元ずつでも作成し、利用図書一覧を提示することは、活用の幅を広げることになると思う。
- ・ 図書館訪問、出前講座の実施履歴を作成し、各担任が図書館利用の見通しを持てるようにする。
- ・ 読み聞かせボランティアさんの連絡体制（ネット）や掲示板をつくり、読み聞かせについての情報を入手しやすくする。

- ・ 授業での本の活用は出来ているが、日々の読書量が減っているのが現場だ。
- ・ 子どもが読みたい本がたくさんある、行きたい図書館がある、そういうところを目指して図書館と情報共有していきたい。

（４） 新図書館のホールの活用について

【家庭・地域】

- ・ 演劇や音楽の公演
- ・ 見るだけでなく発表する体験もあると良い。
- ・ 乳児健診（健診に来たお母さんが図書館に寄ることができる、読み聞かせができる、時間待ちの時や一緒に来た家族が図書館で過ごせる）
- ・ 絵本作家等の講演（柴田ケイコさんなど）
- ・ 図書館まつり

【保育園】

- ・ 徒歩では遠いため頻繁に行くことはできないが、年に何回か年長児が利用できるような計画を立てていきたい。

【幼稚園】

- ・ おはなし会の開催
- ・ 人形劇や影絵などの上演

【学校】

- ・ トークイベントやコンサート等
- ・ イスを設置せず、ホールとして利用できるのであれば、利用予定が入っていない日は広く利用者を募集してはどうか？
- ・ 防音が大丈夫であれば、ダンスの練習なども？

- ・まち探検や職場体験等で活用したい。
- ・ボランティアの読み聞かせの研修等でも活用できるのではないか。